

5 月度日本ゴルフサミット会議運営会議 議事要旨

開催日 2019 年 5 月 23 日 (木)

場 所 日本ゴルフ協会 会議室

出 席 日本ゴルフ場経営者協会 (NGK) ・ 日本ゴルフコース設計者協会 (JSGCA)

日本ゴルフ用品協会 (JGGA) ・ 日本ゴルフ協会 (JGA) ・ 日本女子プロゴルフ協会 (LPGA)

全日本ゴルフ練習場連盟 (JGRA) ・ 日本ゴルフジャーナリスト協会 (JGJA)

全国ゴルフ会員権取引業団体連絡会 (JGMD) ・ 日本ゴルフトーナメント振興協会 (GTPA)

日本パブリックゴルフ協会 (JPGS) ・ 日本プロゴルフ協会 (PGA)

以上 11 団体

欠 席 日本ゴルフツアー機構 (JGTO) ・ 日本芝草研究開発機構 (TOJ) ・ 全国ゴルフ場関連事業協会 (JGIA)

日本ゴルフ関連団体協議会 (ゴ連協) ・ 日本ゴルフ場支配人会連合会

以上 5 団体

【議 事】

I. 「2018 年度日本ゴルフサミット会議収支報告」承認の件

「2018 年度日本ゴルフサミット会議収支報告書」に基づき報告を実施した結果、収支報告を承認し、7 月サミット会議に上程することとした。

II. 「女性ゴルファーの創造 (開拓)」について

① 「2018 年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」 (スポーツ庁)

アンケート実施期間：2019 年 1 月 11 日～29 日 対象者数：約 220 万人 (18～79 歳の男女)

調査方法：インターネット調査 有効回答者数：2 万人

本調査は、2016 年以降調査方法を WEB 調査に変更し、毎年実施されている。

この調査結果から、「女性がこの 1 年間に実施した上位 5 種目」は、「ウォーキング 62.1%」「体操 18.6%」「階段昇降 14.5%」「トレーニング 12.9%」「エアロビ・ヨガ・ピラティス等 12.6%」となっている。

男女間の実施率の差で女性が多いのは、「エアロビ・ヨガ・ピラティス等」が 10.9%アップ、「体操」が 6.5%アップで「女性らしさ」に関係する種目となっている。「ゴルフ」の実施状況は、「ゴルフコースラウンド」「練習場」共に全 33 種目中 18 位の 2.1%である。女性が「1 年間でゴルフを初め、あるいは久しぶりに再開した人の割合」は、「40 歳代 0.7%、50～70 歳代 0.4%」となっており、ピーク年齢が男子の 50・60 歳代に比較して 40 歳代となっている点が注目される。

また、スポーツ実施の阻害要因の第 1 位が「仕事や家事が忙しい」となっている点が、ラウンド時間に移動時間を加えた所要時間が長い「ゴルフ」にとっては最も大きな障害となる。特に、20 歳代・30 歳代の 65%の男女がともに「仕事や家事が忙しい」と回答している。

国が推し進めている「働き方改革＝ワークライフバランスの改善」との政策の成否が、スポーツの振興 (ゴルフの普及) に欠かせない要点である。また、多くの企業が、コンプライアンス強化によって、コーポレート・ガバナンスを図ろうとしている。この企業経営の中に、人材育成との観点から「ゴルフの持つ特性 (自己規律の強化・感受性が豊になる・コミュニケーション能力の向上、健康増進等)」が役立つことを訴え、「ゴルフの普及」が図れる可能性がある。(昔に比べて減少していると言われている「仕事関係でのゴルフを始めた」との割合が、依然として約 50%を占めている。)

② 新たな活動方針「女性ゴルファーの創造 (開拓)」の具体的活動について

*活動のターゲットを 1 点に絞る。

「株式会社ネオマーケティング」調査 1,700 名 20 歳～69 歳の女性

ポイント：「自己投資」、「ご褒美消費」に積極的な女性の姿が顕在化。

「有職独身女性・子離れ女性」を中心に約 6 割の人が自己投資を増加。(特に「子離れ女性」。)

自分のセンスや欲求に素直。(約半数が、値段が高くても気に入れば買う。)

自分の趣味や興味に食欲・情報入手はオンライン・オフライン両方でアクティブに行動。

以上のような分析やスポーツ庁のデータ等から、「子離れ女性層」を第 1 のターゲットに絞る方向で検討する。特に「子離れ女性層」は、「自分へのご褒美投資」の面が旺盛で、他の競技に比較して高い「ゴルフ道具」の購入にも可能性が大きい。(ゴルフは、女性におすすめのスポーツ第 7 位)

*「女性に優しい設備や施策」について、アンケート調査を実施する。

対象：「ゴルフ場」、「ゴルフ練習場」、「ゴルフ (スポーツ) 用品販売店」

尚、「ゴルフ場」については、18 ホールの総ヤードで、4,400～4,600 ヤードの設定コースも 調査する。

- * 「既存女性ゴルファー」と「ゴルフ未実施の女性」に対し、アピールする象徴的な運動を打ち出す。
ゴルフ界が、「女性ゴルファーの創造」を共通テーマとして活動しているとの意思表示する象徴的活動を決定し、一般に公表することにより認知度を高める。
(象徴的で統一感があり、かつ、コスト的にも比較的低廉で可能な例)
プロ野球団界等で女性層のファン拡大のために実施している「ピンクリボン運動」、
USGA が示しているドライバーの飛距離と 18 ホールのトータルヤーデージをレンジ幅ごとに表現する色彩や名称に統一感を出す。(「ティーマーカー」や「スコアカード」に使用)
(従来の「赤＝レディースティ」との既成概念があるため、飛距離の低下した男性プレーヤーが使用することを嫌がるとの問題にも対応でき、かつ、プレーヤーは自身の技量にあったセッティングを選択しやすくする。特に、女性の初心者に、安心感を与えられる。)

III. その他

各団体が開催するセミナーやイベント等の情報提供が行われた、

IV. 次回運営会議

2019 年 7 月 10 日 (水) 10 時～12 時 於) 日本ゴルフ協会

V. 日本ゴルフサミット会議開催日程

2019 年度第 2 回日本ゴルフサミット会議 2019 年 7 月 31 日 (水) 13 時 30 分～15 時 30 分
2019 年度第 3 回日本ゴルフサミット会議 2019 年 11 月 25 日 (月) 13 時 30 分～15 時 30 分

以上